代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行　医療法人財団 東京勤労者医療会　1部60円
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷１―30―７
ＴＥＬ03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

在宅まるごと支えます

医療、介護、地域のネットワーク

安倍内閣は、医療・介護一体改悪（医療・介護総合確保推進）法案について今国会での成立を狙っています。在宅医療・介護も充分整備されていない中で、患者の追い出しを進めようとしています。

代々木病院は政府の推し進める「自立・自助」の社会保障改悪に対し、社会保障の充実を求めてこれからも運動していくとともに、保健予防活動、医療・介護の連携の中で、まちづくりをすすめ、地域で安心して暮らし続けることを支援していきます。

2025年問題とはなんでしょう

2025年問題とは、団塊の世代の方たちが、75歳以上の後期高齢者になる年です。

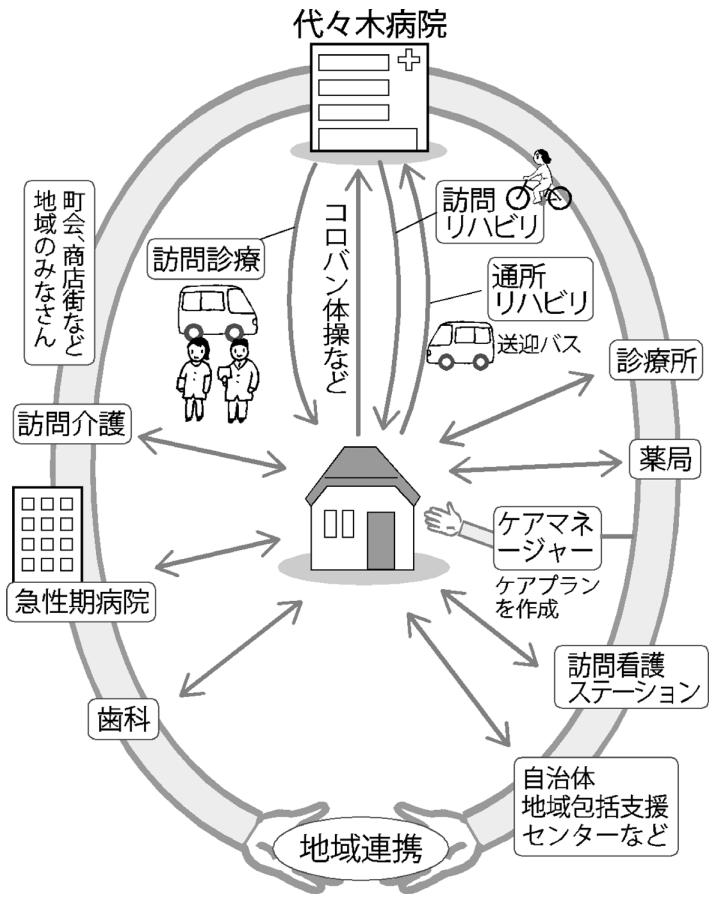
これまでの高齢化問題は、高齢化の「速さ」が問題でしたが、高齢化率の「高さ」つまり高齢者数の「多さ」が問題となります。4人に1人が75歳以上という超高齢化社会が到来します。今後、急速に高齢化が進むと見込まれるのは、首都圏をはじめとする都市部です。

これまで国を支えてきた世代が給付を受ける側に回ることにより、医療・介護、福祉サービスへの需要が高まります。

しかし、2025年に向かって増え続ける社会保障費抑制のため、政府は19の法律改定について定めた医療・介護総合確保推進法を衆議院で強行採決しました。

さらにそれに先がけ4月の診療報酬改定では、実質1・26%のマイナス改定を行いました。

厚生労働省（以下、厚労省）は、2025年に向け、「地域包括ケア」をかかげ、医療と介護を再編しようとしており、今回の改定はその第一歩です。



特に診療報酬と介護報酬、医療計画と介護保険事業計画の改定を同時に行う2018年を、「2025年改革」に向けた大がかりな提案ができる好機と捉えています。今回の改定にも、厚労省が考える「病院から在宅へ」「医療から介護へ」の流れが表れています。

強引な新算定要件で、7対1病床の9万床削減を狙う

国の打ち出す「2025年の社会保障モデル」の実現に向け、アクセルが踏み込まれたのは、過去最大の「7対1病床（患者さん7人に対し看護師1人を配置）」の絞り込みです。7対1病床の36万床を規制強化することで、2年間で9万床減らし、医療費の削減を狙っています。基準のハードルを高くすることで、病床が維持できない強引なやりかたです。

日本は、国際的にも少ない看護体制であるにもかかわらず、配置人数を算出する「重症度、医療・看護必要度」の基準を強化しました。平均在院日数を短くし、急性期病床から75%もの在宅復帰を求める基準です。

急性期病床の削減は、その後の受け入れ病床や、在宅医療・介護などの体制が十分整備されていない状況の中で対応を迫られ、地域医療・介護の現場に新たな混乱をまねきます。このままでは患者さんが自宅で暮らしていける状態で無いにもかかわらず帰されかねません。

すき間のない医療・介護のネットワーク

代々木病院は、皆さんが在宅で暮らすことを支える病院です。

急性期病院からの早期退院の受け皿として、また在宅患者さんを受け入れる、地域の方のベッドとして3つの病棟・150のベッドがあります。一般病棟、回復期リハビリ病棟、障害者施設病棟です。急性期の治療を終えた患者さんへの社会復帰、在宅復帰への援助をしています。

在宅へ戻られても診療の必要な方へは訪問診療にうかがいます。

住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが継続できるように、ケアマネジャーや訪問看護ステーション、訪問介護事業所、地域包括支援センターなどと連携し、シームレス（すき間のない）医療と介護の提供を行っています。

生活支援の視点から、在宅での生活を支える「要」の役割をもっているのがケアマネジャーです。看護師、介護福祉士の「基礎資格」を持つケアマネジャーが専門性を活かし、その人に合ったケアプランをたてます。

通所リハビリは、ご自宅までおむかえに行き、病院で理学療法士や作業療法士、リハビリテーション療法を受けることができます。

訪問リハビリは、作業療法士や理学療法士、言語聴覚士がご自宅に訪問しリハビリを行います。自宅で生活することがリハビリです。ひとりひとりの生活の中で元気に暮らしていくためのリハビリを提供します。

「地域まるごと健康づくり」では、地域のみなさんといっしょにこの地域で健康に暮らし続けられるまちづくりを進めています。毎週金曜日、共同組織のみなさんといっしょに「ころばん体操」「脳トレーニング」を行い、地域のコミュニケーションの場としてもご利用いただいています。

■

代々木病院は、国の推し進める「自立・自助」の社会保障改悪に対し、充実を求めてこれからも運動をしていきます。

同時に保健予防活動、医療・介護で連携し、まちづくりを進め、地域で安心して暮らし続けることを支援していきます。

千駄の萱

初孫が生まれた数日後、韓国では約300人の若者の未来と命が失われました。船長をはじめ多くの大人達の無責任が被害を拡大した人災であることは明らかです。

このようなことは、日本を含め世界各国で繰り返されてきました。反省が活かされていないことが大変残念です▼我が国でも、先の大戦前後の人道に反する行為（七三一部隊の人体実験、慰安婦等）を含めた戦争責任は、十分な検証が行われとは言えず、戦後日本の国内や外交関係に深い傷として残されたままです。また、私の故郷・熊本で起きた水俣病は、公害の原点と言われながら十分な対応と被害の直視が欠如したため、未だ終点に辿りついていません▼人や組織は社会の中で自由を持つ反面、為す・為さざる行為は法的または道徳的な責任を免れず、行為と結果に対する真摯な考察と反省がないところに成長はありえません▼責任と反省を忘れないことは、全ての人々に欠かせないことですが、戦争指導者になりたがっている安倍総理がセウォル号の船長のように、いざとなると責任を放棄し、退陣する姿は二度と見たくないです。　（ま）